

14時30分解禁

2023年10月 全国百貨店売上高概況

2023年11月24日

I. 概況

1. 売上高総額	4,531億円余
2. 前年同月比(増減率)	6.1%(店舗数調整後/20か月連続プラス)
3. 調査対象百貨店	72社 180店 (2023年9月対比±0店)
4. 総店舗面積	4,675,971㎡ (前年同月比:-3.4%)
5. 総従業員数	51,005人 (前年同月比:-6.7%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	3-5月 8.3%、4-6月 7.3%、5-7月 7.4%、 6-8月 9.0%、7-9月 9.8%、8-10月 8.8%

[参考] 2022年10月の売上高増減率は11.4%(店舗数調整後)

【特徴】

10月の売上高は6.1%増、入店客数2.6%増と、共に20か月連続のプラスとなった。気温が高く推移したことで、秋冬物や防寒商材の動きは鈍かったものの、高付加価値商品の増勢やインバウンドの活況が売上全体を押し上げた。各社が企画した物産展などの食品催事やイベントも奏功した。コロナ前の2019年比では消費増税の反動から19.9%増と二桁伸びを示した他、特殊要因のない2018年比でも同水準を維持しており、回復基調は鮮明となっている。

顧客別では、インバウンドが、円安効果に加え、国慶節・中秋節休暇等による客数増もあり178.9%増(19か月連続/シェア8.5%)の383億円と、2014年10月の調査開始以来、最高額(2019年4月の344億円)を更新した。2019年比では前月より20.4%アップの49.7%増と、4か月連続でコロナ前の実績を上回っている。国内市場は0.4%増(20か月連続/シェア91.5%)とプラスを維持している。

地区別では、都市(10都市/25か月連続)が、インバウンドと増勢が続く高額商材などから、8地区で前年実績をクリアし、合計9.1%増と好調に推移した。地方(10都市以外の7地区/2.5%減)は5地区で前年割れとなり、4か月ぶりにマイナスに転じた。

商品別では、主要5品目のうち4品目で前年実績を超え、この内、身のまわり品と雑貨は、コロナ前(2018年)の水準も上回った。ラグジュアリーブランドのバッグや時計、宝飾品など高額商材や化粧品は、引き続き国内外共に好調に推移している。主力の衣料品は、天候与件からコートが苦戦したものの、ジャケットや、カットソーなど軽衣料は好調だった。食料品は、惣菜が僅かに前年割れしたが、ギフトや手土産需要などから好調な和洋菓子が牽引し、再びプラス転換した。年末年始の需要に向けて、おせちやクリスマスケーキの予約がスタートしたが、滑り出しは堅調に推移している。

【要因】

- (1) 天候：気象庁発表「10月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)
◇気温は寒気の影響が一時的だった北日本でかなり高く、降水量は、西日本日本海側でかなり少なかった一方、北・東日本日本海側で多かった。日照時間は、高気圧に覆われ晴れた日が多かったため、全国的に多かった。
- (2) 営業日数増減 30.9日(前年同月比 +0.1日)
- (3) 土・日・祝日の合計 10日(土曜1日減)
- (4) 入店客数増減(回答店舗数で見える傾向値/前年同月比/有効回答数104店舗)
①増加した：47店、②変化なし：27店、③減少した：30店
- (5) 10月歳時記(秋物商戦、秋の行楽)の売上(同上/有効回答数69店舗)
①増加した：14店、②変化なし：47店、③減少した：8店

全国百貨店 売上高速報 2023年10月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	453,139,322	100.0	6.1 (5.8)
10都市	345,755,370	76.3	9.1
札幌	12,705,582	2.8	7.9
仙台	6,279,214	1.4	3.4
東京	132,397,934	29.2	8.0
横浜	27,009,460	6.0	-0.3
名古屋	32,925,418	7.3	9.2
京都	21,157,642	4.7	16.6
大阪	75,057,186	16.6	14.8
神戸	11,805,366	2.6	10.9
広島	6,901,583	1.5	-12.2
福岡	19,515,985	4.3	13.5
10都市以外の地区	107,383,952	23.7	-2.5 (-3.5)
東北	4,489,179	1.0	-14.9
関東	47,072,534	10.4	-3.1 (-4.4)
中部	8,137,745	1.8	2.2
近畿	15,968,349	3.5	0.1
中国	8,586,953	1.9	-1.9
四国	5,689,825	1.3	-1.6
九州	17,439,367	3.8	-2.1

注) 2023年2月より、北海道の1店舗を地区区分10都市の札幌に合算しております。

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	453,139,322	100.0	6.1 (5.8)
紳士服・洋品	28,462,181	6.3	0.8 (0.7)
婦人服・洋品	93,811,240	20.7	7.2 (7.0)
子供服・洋品	6,810,557	1.5	-6.4 (-7.0)
その他衣料品	7,136,194	1.6	-4.1 (-4.4)
衣 料 品	136,220,172	30.1	4.4 (4.2)
身のまわり品	76,197,711	16.8	12.7 (12.2)
化粧品	36,038,528	8.0	15.2 (14.9)
美術・宝飾・貴金属	44,000,033	9.7	14.8 (14.7)
その他雑貨	12,649,575	2.8	0.1 (-0.0)
雑 貨	92,688,136	20.5	12.7 (12.5)
家 具	4,148,181	0.9	-0.7 (-0.8)
家 電	1,138,159	0.3	2.8 (2.8)
その他家庭用品	9,670,232	2.1	-0.4 (-0.7)
家 庭 用 品	14,956,572	3.3	-0.3 (-0.5)
生 鮮 食 品	17,861,262	3.9	0.4 (0.0)
菓 子	30,402,056	6.7	3.5 (3.2)
惣 菜	29,071,869	6.4	-0.4 (-0.7)
その他食料品	31,330,805	6.9	-2.2 (-2.7)
食 料 品	108,665,992	24.0	0.2 (-0.1)
食 堂 喫 茶	10,291,858	2.3	7.4 (7.4)
サ ー ビ ス	3,646,185	0.8	-15.0 (-15.0)
そ の 他	10,472,696	2.3	10.3 (10.1)
商 品 券	5,244,550	1.2	-6.3 (-6.6)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 9.1% (25か月連続プラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -2.5% (店舗数調整後／4か月ぶりマイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
10都市	9.1	6.7	25か月連続プラス
札幌	7.9	0.2	20か月連続プラス
仙台	3.4	0.0	2か月ぶりプラス
東京	8.0	2.3	26か月連続プラス
横浜	-0.3	-0.0	5か月ぶりマイナス
名古屋	9.2	0.6	25か月連続プラス
京都	16.6	0.7	25か月連続プラス
大阪	14.8	2.3	25か月連続プラス
神戸	10.9	0.3	20か月連続プラス
広島	-12.2	-0.2	2か月連続マイナス
福岡	13.5	0.5	25か月連続プラス
10都市以外の地区	-2.5	-0.6	4か月ぶりマイナス
東北	-14.9	-0.2	2か月連続マイナス*
関東	-3.1	-0.4	2か月連続マイナス
中部	2.2	0.0	2か月ぶりプラス
近畿	0.1	0.0	4か月連続プラス
中国	-1.9	-0.0	4か月ぶりマイナス*
四国	-1.6	-0.0	4か月ぶりマイナス
九州	-2.1	-0.1	4か月ぶりマイナス

(注1) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

(注2) 2023年2月より、北海道の1店舗を地区区分10都市の札幌に合算した。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は家庭用品を除く4品目でプラスとなり、身のまわり品、雑貨は二桁増となった。その他の品目は、美術・宝飾・貴金属が33か月連続、菓子が26か月連続、生鮮食品が4か月連続でプラスとなった一方、子供服・洋品、家具、惣菜が2か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	6.1	—	20か月連続プラス
紳士服・洋品	0.8	0.1	11か月連続プラス
婦人服・洋品	7.2	1.5	20か月連続プラス
子供服・洋品	-6.4	-0.1	2か月連続マイナス
その他衣料品	-4.1	-0.1	6か月連続マイナス
衣料品	4.4	1.4	20か月連続プラス
身のまわり品	12.7	2.0	25か月連続プラス
化粧品	15.2	1.1	20か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	14.8	1.3	33か月連続プラス*
その他雑貨	0.1	0.0	19か月連続プラス*
雑貨	12.7	2.4	25か月連続プラス
家具	-0.7	-0.0	2か月連続マイナス
家電	2.8	0.0	13か月連続プラス
その他家庭用品	-0.4	-0.0	4か月ぶりマイナス
家庭用品	-0.3	-0.0	4か月ぶりマイナス
生鮮食品	0.4	0.0	4か月連続プラス*
菓子	3.5	0.2	26か月連続プラス*
惣菜	-0.4	-0.0	2か月連続マイナス*
その他食料品	-2.2	-0.2	2か月連続マイナス*
食料品	0.2	0.1	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	7.4	0.2	20か月連続プラス
サービス	-15.0	-0.2	2か月ぶりマイナス
その他	10.3	0.2	19か月連続プラス
商品券	-6.3	-0.1	8か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

2023年10月 東京地区百貨店売上高概況

2023年11月24日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 323億円余
2. 前年同月比（増減率）	8.0%（26か月連続プラス）
3. 店頭・非店頭 の増減	店頭8.9%（93.0%）：非店頭－2.9%（7.0%） （ ）内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店（2023年9月対比±0店）
5. 総店舗面積	744,130㎡（前年同月比：－1.8%）
6. 総従業員数	13,755人（前年同月比：－6.7%）
7. 3か月移動平均値	3-5月 10.7%、4-6月 9.8%、5-7月 10.1%、 6-8月 10.8%、7-9月 9.6%、8-10月 8.1%

〔参考〕2022年10月の売上高増減率は17.0%

【特徴】

- 10月の東京地区は、売上高8.0%増（26か月連続）、入店客数7.3%増（10か月連続）と、共に前年実績を上回った。気温が高止まりしたことで重衣料の動きは鈍かったものの、高付加価値商材や化粧品の好調に加え、インバウンドの増勢が売上増に寄与した。コロナや消費増税の影響のない2018年比でも2.7%増と、回復基調は更に鮮明になってきた。
- 商品別では、主要5品目のうち、食料品を除く4品目がプラスとなった。主力の衣料品（6.5%増/25か月連続）は、天候与件からコートは苦戦したものの、ジャケットやブルゾン等の軽量アウターが好調だった他、ワンピースや薄手のニットは堅調に推移した。
- 身のまわり品（12.9%増/26か月連続）は、ラグジュアリーブランドで一部価格改訂前の駆け込みが見られた他、活況なインバウンド需要も加わって、2018年比でも約3割増加（27.1%増）し、一段と大きく伸びを示した。雑貨（17.4%増/26か月連続）は、化粧品が国内外の需要を取り込み、リップ等メイクアップ商品の他、フレグランスやメンズコスメ等も含め幅広い品目で好調に推移した。
- 食料品（0.4%減/3か月連続）は、僅かに前年には届かなかったが、菓子は贈答・手土産需要の他、自家需要でも栗や柿を使用した季節商材などに動きが見られた。おせちやクリスマスケーキの予約、歳暮の受注はECを中心に順調な出足となっている。
- 11月中間段階の商況は、気温の低下に伴い、秋冬物衣料が動き始めてきたことから、前年比7.6%増（11/16時点）、2019年比では7.4%増で推移している。

【要因】

- 営業日数増減 31.0日（前年同月比 +1.2日）
- 入店客数増減（回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数17店舗）
①増加した：16店、②変化なし：0店、③減少した：1店
- 10月歳時記（秋物商戦、秋の行楽）の売上（同上/有効回答数12店舗）
①増加した：3店、②変化なし：9店、③減少した：0店

東京地区百貨店 売上高速報 2023年10月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	132,397,934	100.0	8.0
紳士服・洋品	11,211,573	8.5	6.6
婦人服・洋品	23,367,761	17.6	7.6
子供服・洋品	2,077,646	1.6	4.7
その他衣料品	1,640,092	1.2	-6.6
衣 料 品	38,297,072	28.9	6.5
身のまわり品	24,054,342	18.2	12.9
化粧品	11,098,527	8.4	19.5
美術・宝飾・貴金属	15,597,858	11.8	17.4
その他雑貨	4,652,488	3.5	12.7
雑 貨	31,348,873	23.7	17.4
家 具	1,557,700	1.2	19.3
家 電	729,594	0.6	-1.1
その他家庭用品	2,864,693	2.2	2.0
家 庭 用 品	5,151,987	3.9	6.2
生 鮮 食 品	3,422,406	2.6	2.0
菓 子	7,897,492	6.0	5.6
惣 菜	7,459,280	5.6	-1.0
その他食料品	8,593,336	6.5	-5.7
食 料 品	27,372,514	20.7	-0.4
食 堂 喫 茶	2,379,743	1.8	11.1
サ ー ビ ス	1,615,978	1.2	-25.7
そ の 他	2,177,425	1.6	11.5

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,425,365 千円	-2.1
従 業 員 数	13,755 人	-6.7
店 舗 面 積	744,130 m ²	-1.8

営 業 日 数	31.0 日	前年	29.8 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は食料品を除く4品目でプラスとなり、身のまわり品、雑貨は二桁増となった。その他の品目は、化粧品が26か月連続、美術・宝飾・貴金属が5か月連続でプラスとなったほか、生鮮食品が3か月ぶりにプラスとなった一方、家電が13か月ぶり、惣菜が3か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	8.0	—	26か月連続プラス
紳士服・洋品	6.6	0.6	24か月連続プラス
婦人服・洋品	7.6	1.3	26か月連続プラス
子供服・洋品	4.7	0.1	16か月連続プラス
その他衣料品	-6.6	-0.1	6か月連続マイナス
衣料品	6.5	1.9	25か月連続プラス
身のまわり品	12.9	2.2	26か月連続プラス
化粧品	19.5	1.5	26か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	17.4	1.9	5か月連続プラス*
その他雑貨	12.7	0.4	20か月連続プラス*
雑貨	17.4	3.8	26か月連続プラス
家具	19.3	0.2	2か月ぶりプラス
家電	-1.1	-0.0	13か月ぶりマイナス
その他家庭用品	2.0	0.0	4か月連続プラス
家庭用品	6.2	0.2	2か月ぶりプラス
生鮮食品	2.0	0.1	3か月ぶりプラス*
菓子	5.6	0.3	2か月ぶりプラス*
惣菜	-1.0	-0.1	3か月連続マイナス*
その他食料品	-5.7	-0.4	8か月連続マイナス*
食料品	-0.4	-0.1	3か月連続マイナス
食堂喫茶	11.1	0.2	20か月連続プラス
サービス	-25.7	-0.5	2か月ぶりマイナス
その他	11.5	0.2	9か月連続プラス
商品券	-2.1	-0.0	8か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>